（様式⑦-1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立深井西小学校
校長　西井　義男

中学校区におけるめざす子ども像　　自らを律し、自ら学び続ける子

令和5年度　重点目標　めざす児童像「輝く子」　○人を思いやる子　○協力する子　○ルールを守る子
1　毎日楽しく通学し、学ぶことができる学校づくりのため、チーム力を生かした職員間の共通理解・意思統一・情報の共有化・対応の統一を実現する。地域や家庭、関係諸機関とともに連携しながら課題解決・健全育成を進める。
2　児童の豊かな心と健やかな体を育成するために、計画的・継続的な取組を推進する。
3　児童の総合的な学力向上のため、主体的・対話的で深い学びの具体化をめざす。職員はそのための指導力を向上させ「誰もが安心して楽しく学びあえる」授業・学級の実現　を図る。（基礎・基本の定着を確実に行い、特に学力低位層へ継続的な指導を行う）

確かな学びの現状
国語科において、「読むこと」の領域では論理的に読み取ることや語彙力に課題がみられる。「書くこと」については，体験したことは書くことができるが，自分の考えを書くことに課題がみられる。また，「聞く力」に課題があり，意図をとらえて話を聞くことが難しい。聞く必要性を感じさせ，児童の興味・関心をひきつける学習課題の設定等の工夫を重ね，まずは学びに向かわせていく必要がある。 児童が主体的に交流しながら，学習する姿勢を育みたい。
今年度は研修テーマを『「伝え合う力の育成」～伝える・聞く、スタンダードの定着～』と設定し，国語科の授業実践に取り組んでいく。授業改善に取り組むことで，児童が課題をつかみ解決しようと取り組む姿を増やし，言語力を育んでいきたい。
そのためにも，「ユニバーサルデザイン」に基づいた授業づくりをすることで，どの児童も安心して生き生きと学べる学習環境の構築にも，引き続き努めたい。

豊かな心・健やかな体の現状
・児童数に対して比較的広い運動場が本校にはある。休憩時間に運動場へ出て遊んだり運動したりする児童も増加傾向にある。そこで元気よく遊ぶ運動する児童を更に増やすために，各クラスに配給するボールの数や運動用具を増やしたり，運動場にミニバスケットボール用のコートを整備したりするなど，運動場の環境をよりよくすることで少しずつ効果として現れてきている。
・コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策もあり，給食の減らしやおかわりに制約があった分「残食」がやや多かったので，食育担当者による「給食と栄養の関係」の講話や，給食場での「残量」を計測し児童に啓発するなど，本校独自の取り組みを積極的に行っている。
・昨年度の生活アンケートによると，起床時間は7時半までに起床している割合が高く差はほとんど見られない。しかし，就寝時間が22時以降と回答した割合が41%であり，発達段階により差があるものの，全国平均と比べて遅いことがわかった。できる範囲で睡眠の実態把握を行い，「早寝・早起き・朝ごはん」「家での7つのやくそく」などの資料や指導で啓発を行い，規則正しい生活リズムの確立を図っている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期		進捗確認 （～11月）	達成状況(年度末) 自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	総合的な学力の向上	「伝え合う力」の育成 ～伝える・聞く、スタンダードの定着～	★国語科を中心として「言語力(書くこと・読むこと・話す聞くこと)」を育成する。 ・つけたい力を明確にした授業改善 ・朝の学習（水・金曜日） ・研究授業・公開授業・グループ研修	「授業では，自分の考えをよく書いている。」で肯定評価80% 「意見を発表したり，友達の意見を聞いたりすることで楽しく学習できた。」 で肯定評価80%	学校教育アンケート 研究授業	11月末 6月・10月・11月	A	国語科研究授業 5月31日に6年生，9月27日に1年生，10月6日に2年生，を実施 3年生，4年生，5年生についても今後予定。 UDおよび言語活動（話す・聞く・書く・読む）を中心に研究授業の討議会をおこなってきている。 公開授業ウィークにより各教員の実践をみることができるようになった。	A	・各学年で一度の研究授業を実施。 （11/10に3年，11/22に5年，1/19に4年） ・9月と11月に公開授業ウィークを行い，相互に授業参観を行った。 ・「国語の授業で自分の考えを話したり，書いたりできていますか」で肯定評価88%を超えた。 ・「楽しく学習した」で肯定評価88.8%。 ・UDの知見に基づいた教室環境づくりが定着してきた。UDおよび言語活動（話す・聞く・書く・読む）を中心に研究授業の討議会をおこなった。 ・伝え合う力のスタンダードを各学年で考え，定着を図ってきた。	A	・聞く(聞いて理解する)，話す（分かりやすく話す）は，自分自身を高める有効な教育だと思われる。 ・新型コロナウイルス感染症の流行を過ぎて，以前のようなグループでの話し合い等で「話す」「聞く」機会が増えたことが良い。	A
		「堺版授業スタンダード」「ユニバーサルデザインチェックシート」を活用した適切な授業の実施	●UDの知見を活かし、安心して学べる教室環境を整え，全員が楽しく「わかる」「できる」授業をめざした実践を行い，学びに向かう力を育成する。 「学習規律（10か条）」の徹底により，学ぶ姿勢の確立をめざす。	「楽しく学習した。」で肯定評価80%	学校教育アンケート 「学習規律（10か条）」ふりかえり ユニバーサルデザインチェックシート	11月末 毎学期 毎学期	A		A		A	
		教育ICTを有効に活用した指導法の工夫・改善	ICT機器（電子黒板・タブレット・デジタル教科書など）を活用したわかりやすい授業の工夫	「タブレットや大型テレビ（電子黒板）などを使って学習するとわかりやすい。」で肯定評価80% 1日に1回程度タブレットを活用した授業を実施	学校教育アンケート 実施報告 実施報告	11月末	A	1人1台タブレットを低学年でも活用を進めている。学年や学級で活用に差があるものの，前年度より活用が進んだためその差は縮まっている。タブレットを活用した授業の頻度は1日1回を満たしていない学級もあるが，増加傾向にある。 全学級で「朝の読書」「図書の時間」を確保できている。読書キングの掲示も始まり，読書実態の見える化に取り組み始めた。ただ，感想を書くのに抵抗がある児童も多いのが課題。学級文庫の整備を進めることができている。 全学級で自主学習ノートに取り組み，校内掲示や学級での紹介により，内容もより良いものになってきている。自主学コンテストも計画的に開催している。	A	・1人1台タブレットを活用した授業の実践を各学年で実施してきた。 ICTを使った授業実践がどの学級でも浸透してきている。「タブレットや大型テレビ（電子黒板）などを使って学習するとわかりやすい。」では肯定評価88% ・読書キングの取り組みは実施できた。全校朝礼で「読書キング」の表彰をおこなった。今後より進めるために，図書の時間と読書キングの記入を連動させることが必要である。	A	・タブレットや大型テレビを活用した授業は，進んだ学習方法ですばらしい。 ・読書キングは設定のハードルが高いのではないだろうか。見直しが必要だと思われる。	A
		読書指導の充実による「本を読む生活」の実現	朝の読書（火・木）や図書の時間の確保、読書手帳の有効な活用により読書活動を推進する。 水・金曜日の始業前に基礎基本についての学習を実施する。 学級文庫を整備する。	「読書キング」の表彰の状況 「本を読むのは楽しいと思う。」で肯定評価が80%	「読書キング」表彰 学校教育アンケート	毎学期 11月末	B		B		B	
		自主的な学習習慣の定着（自主学習ノート）	★「家庭学習の手引き」をもとに、家庭と連携しながら、自主的に学習する習慣を定着させる 自主学コンテストを開催し，意欲的に自主学習に取り組めるようにする。	全学年（1年生は後期から）・全学級で全員が自主学習ノートに取り組む 「自主学習ノートに取り組んだ」で全員肯定評価	提出率 学校教育アンケート	毎月 11月末	B		B	自主学コンテストを定期的に開催できた。 「週1回は自主学習ノートに取り組んだ」で肯定評価75.2% 自主学習ノートに限らずに，自主学習ができるように，目的意識をもって家庭学習に取り組めるようにしたい。	B		B
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	生活習慣の定着と、思いやりのある心と態度の育成	●「豊かな心」の育成をすすめる中心的な取組としての「あいさつのできる子ども」の育成 あいさつ運動に取り組む。 あいさつ標語ポスターの作製、掲示を行う。	「子どもたちは，すすんであいさつができるように育ってきている」で肯定評価が80% あいさつ運動に取り組んだ	学校教育アンケート 学期末のあいさつ児童アンケート	11月末	A	全校朝礼で校長および生指担当から「あいさつ」について機会あるごとに話をしている。あいさつ運動も毎学期，期間を決めておこなっている。今年度は1年間のうち，3か月は子どもが校門に立ってあいさつすることになっている。教師側から子どもたちへあいさつすることを意識して取り組んでいる。自分から進んであいさつする児童が増えている。 学習規律，学習習慣，生活習慣の定着に向けて，生指担当を中心として取り組んでいる。特に「あいさつ」「ベル着」「掃除」の指導を徹底した。 縦割り活動「深西タイム」を4回実施済み。6年生を中心に楽しく活動している様子が見られる。	A	・児童アンケートで「すすんであいさつができた」の肯定評価が91.4%であった。また地域の方から「あいさつをしっかりできる子が増えている。」というお声も頂いている。しかし、保護者アンケートでは80%（昨年度88%）と子どもたちが学校外ではまだあいさつができていない実態がある。そこが今後の課題である。 ・「学校は社会のきまりやルールを守ることを指導している」の肯定評価が保護者の方が85%児童の方が90%という結果だった。 ・深西タイムは6年生が主体的に計画・実行することができた。「生活アンケート」でも重大ないじめ事項と認められるものは一つも上がることはなかった。 ・「学校はいじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」で肯定評価67%（わからない17.2%） ・「いじめなどダメだと意識して行動した」で肯定評価93.4%	A	・あいさつについては，毎年，肯定評価が高く，学校として継続的な取り組みになっていて良い。 ・地域で，自宅前を通る多くの子どもたちが，あいさつをするとあいさつを返してくる。	A
			★学習規律（チャイム着席）、学習習慣、生活習慣等の定着に向けて、すべての根底をなす規範意識を育成する「学校生活のきまり」の徹底	「学校は社会のきまりやルールを守ることを指導している」の肯定評価が80%	学校教育アンケート	11月末	A		A		A	・「チャイム着席」や「いじめのない学級」に対してもたくさんの取り組みをおこなっていて良い。 ・深西タイムは楽しいと聞いている。
			思いやりの心を持ち、仲間を大切にする子の育成。児童相互が理解を深め、いじめのない学級・学校をつくる縦割り活動の「深西タイム」の実施	生活アンケートでの早期発見・早期解決 各学期に実施、個別な聞き取りを行う・深西タイムに取り組んだ。 「学校は，いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」の肯定評価が80%	実践報告 学校教育アンケート	毎学期 11月末	B		B		B	
	体力の向上	様々な体育的行事や取り組みを通して体力向上を図るとともに、食育、保健指導の充実を図り、健康な生活を送れるようにする	全クラスで体育の最初の時間に「深西サーキット」を実施し，基礎体力の向上に向けた取り組みをする。 全学年で「体育検定」実施し，休み時間に外へ出て運動したりする習慣を身に着けさせる。	「休み時間に運動場へ出るなどいろいろ運動に取り組んだ。」の肯定評価が80%	授業での振り返りの言語化の確認 （体育カード） 学校教育アンケート	実施後	A	体育の最初の時間に全クラスで「深西サーキット」を実施している。学校全体で統一して行うことができていて，児童の意識も上がってきている。今後に向けて，学年の実態に合った種目や回数を考えていく必要がある。	A	・学校全体で「深西サーキット」に取り組み，児童の基礎体力向上を図ることができた。 ・「体育，休み時間の外遊びなどいろいろな「運動に取り組んだ」で肯定評価78.3% なわとび強化月間，かけ足強化月間の際に，級を達成した児童の名前を職員室前に掲示し，児童のやる気を高めることができ，技能の習得，体力向上を図ることができた。 ・栄養教諭、養護教諭により，食育・保健指導をおこなってきた。 ・生活調査を行い，ハンカチ・ティッシュなどの基本的な持ち物を児童に意識させることができた。	A	・体力づくりへの取り組みを多くおこなっていて良い。 ・クラス一丸となって取り組むところが良い。 ・性別による身体の違いについての学習の機会を増やしてほしい。	A
			自分の体のことについて興味・関心を高める。 3年生以上で保健の授業で健康な生活を送るにはどうすればよいかを考える。 食育，栄養指導，保健指導，健康指導の推進	3～6年生で実施 3年生で実施	実施報告 実施報告	年度末 年度末	A	栄養教諭と連携して，健康に生活を送るための食育指導を行い，児童の意識が高まっている。	A		A	
（地域協働）	信頼される学校	地域組織との連携と地域人材・の活用による開かれた学校づくり	見守り隊等の地域組織との連携により，児童の安心安全に向けた体制づくりに取り組む。 地域人材の活用と連携による教育環境の整備をすすめる。 ※感染症対策の状況下での可能な範囲で 給食交流会、昔のくらし学習、昔の遊び学習など、地域の方々に関わっていただくことで交流を深める	「学校は，見守り隊等の地域の方と連携して，教育環境を整え地域に親しみを持つ児童を育てようとしている」で肯定評価が80% 地域人材の活用と連携状況	学校教育アンケート 活用・連携状況	11月末	B	地域の見守り隊のおかげで，登下校中の事件・事故がおこっていない。 新型コロナへの懸念で地域人材の活用を含めた連携は進んでいない。今後も感染状況をみながら進めていく予定。 学校通信・学年通信を活用して情報発信している。また，ホームページも休日以外は毎日更新して情報発信している。アクセス数を増やすための啓発が必要。	B	・「学校は，見守り隊等の地域の方と連携して，教育環境を整え地域に親しみを持つ児童を育てようとしている」で肯定評価が87%という結果だった。 ・給食交流会，昔のくらし，昔の遊びについての学習は感染不安から実施せず。	B	・地域等との活動は，新型コロナウイルス感染症の流行前ほどは取り組めていない。 ・ホームページ等の活用で情報を多く発信できている。	B
		積極的な情報発信による、教育活動への理解と協力の獲得	学校通信・学年通信の活用 ホームページの積極的な更新を通じて学校の情報を発信する	「学校では学校通信やHPなどを通して，保護者や地域に対し，情報発信に努めている。」で肯定評価が80%	学校教育アンケート	11月末	A		A	・「学校では学校通信やHPなどを通して，保護者や地域に対し，情報発信に努めている。」で肯定評価が89%となった。	A	

校長より(年度末)

今年度、「伝える力の育成を目的とした研究授業」「公開授業」や「『深西スタンダード』の徹底」、「読書」「自主学習」等に力を注いで教育活動をおこなってきた。一定の成果が見られた反面、課題も残った。さらに体力向上に向けた新たな取り組みもスタートできた。また、本校の教育目標にもある『あいさつ』に一年間通してこだわり、子どもたちに伝えてきたことが、十分ではないが、さらにその姿に近づいてきていると感じる。今年度の成果と課題を改めて見つめなおし、目標をもって学校教育活動を実施していきたいと思う。

学校関係者評価者から(年度末)

・「あいさつ」や「体力の向上に向けた取り組み」等，良い部分について今後も継続してほしい。
・「自主学習」や「タブレットの活用」，「地域との連携」については，さらなる取り組みを期待している。